

地域の公園を支える 公園ボランティア

一般社団法人みんなの公園愛護会 代表 花田里佳



発行所
三重県地方自治研究センター
三重県津市栄町2丁目361番地
(一) 三重県地方自治労働文化センター内
TEL059-227-3298
FAX059-227-3116
<http://www.mie-jichiken.jp/>
info@mie-jichiken.jp

はじめまして、 「みんなの公園愛護会」です

私たちは、地域の小さな公園が充実し、豊かであり続けるために、地域の公園を支える市民ボランティアを応援する団体として2020年スタートしました。公園愛護会やアダプトをはじめとした公園ボランティア活動の啓発と、担い手および担い手を支援する行政のサポートを目的として活動しています。今回ご縁をいただき、地域の公園を支える公園ボランティアの現状やこれからについて書いてみたいと思います。

公園ボランティアとは

公園愛護会やアダプト・プログラムなど、様々な支援制度の下で公園に関するボランティア活動をする人々を、私たちは「公園ボランティア」と呼んでいます。

その制度の多くは、地域の住民が地域の公園のお世話をすることを目的としたもので、公園管理と同じく、市区町村ごとに制度設計されています。主に街区公園と呼ばれる、地域の小さな公園で活動することが多く、毎月、ゴミ拾いや草取り、落ち

葉かきなどの活動をすることで、活動費としてのお金が支給されたり、必要な物品が支援されるという仕組みです。もちろん、県立公園のような大きな公園で活動するボランティアもいて、その活動は様々です。

ちなみに「公園愛護会」は、元々は1960年代戦後復興の土地区画整理と住宅開発によって大量の公園が生まれていく一方で、管理しきれなくなった行政サイドが、住民の力を借りて地域の公園の維持管理をしていくという文脈で生まれたものです。

また公園愛護会と同じく、広くその名が知られている「アダプト・プログラム」は、1985年ハイウェイでの散乱ごみ問題が深刻化していたアメリカで生まれたまち美化・清掃活動プログラムで、一定区画の公共の場所を養子に見立て、市民がわが子のように愛情をもって清掃美化を行い、行政がこれを支援する制度です。

どちらも地域の公園やパブリックスペースを、地域住民と行政が協力して守っていくというものです。今では、公園愛護会や、公園アダプト制度、その他様々な名前で、市区町村によってそれぞれの地域の実情に合った形で制度が整備され、「近所の公園を良くしよう」という住民が、掃除をしたり、花を植えたりといったボランティア活動が行われています。

やってみると面白くて気づきも多い

私も、自分の暮らす街で友人たちと一緒に、公園愛護会の活動をしています。毎月のゴミ拾いと除草、落ち葉かき、紫陽花の剪定に、今年は新しく花壇も作りました。まだ手探りのことも多いですが、やってみると、楽しくて、奥が深い！季節ごとに様々な驚きや発見があります。

同時に、やってみて気がついたのは、何十年も前から全国各地の公園でボランティア活動をしている人たちが大勢いて、そのおかげで気持ちよく公園が使えているということ。とても多くの人が活動しているはずなのに、それを知る機会は少ないこと。そして活動のヒントやノウハウのような情報も手に入りにくいのが現状です。

知りたい情報は、どんどん出てきます。どんな道具が便利なのか、道具の使い方や手入れの仕方、草取りの効果的な時期や方法、低木の剪定時期や方法、花壇に植える公園ならではのローメンテナンスな花選び。やればやるほど、誰かに聞きたいことが増えていきます。

公園ボランティアを応援する 団体を設立

そこで、地域を超えて公園ボランティアが繋がりを、知恵やノウハウを共有していくことで、地域の公園がより豊かに、いい感じになっていくことを願って、「一般社団法人みんなの公園愛護会」を設立しました。担い手の視点や感覚をもって、地域を超えた広い視野で民間ならではの



2020年の調査結果をまとめた冊子を全国の市役所公園課に配布しました

まずは現状を広く知ろうと、私たちは公園ボランティアの実態調査を行いました。昨年は実験的に神奈川県内の全33市町村で、今年は全国47都道府県内の公園のある市区町村を対象に、地域の住民が参加する公園ボランティア制度の有無や、支援の内容、活動する団体数などの調査を行いました。

また同様に、公園ボランティアの

公園ボランティア実態調査を実施

動きをする団体として、情報を発信・共有することで、様々な地域で活動する公園ボランティアの担い手を応援し、より楽しく活動してもらうことを目的に活動しています。

いろいろな自治体にヒアリングしてみると、行政の担当者も困っていることが分かりました。どこも「高齢化」と「担い手不足」が共通の課題のようですが、どう対処していけばいいものか。これと言った一発逆転解決策はないようです。

全国自治体調査2021の結果より

担い手を対象にしたアンケート調査も実施。普段の活動内容や人数、やりがいや課題など、リアルな声を集めました。昨年は神奈川県内の8自治体1,175団体に、今年は全国各地の参加希望37自治体2,310団体に、アンケート調査を行っています。

公園のある全国の1,346の市区町村を対象に、インターネットフォームもしくはメールで調査を行い、761件(756市区町村+4県+1広域市町村圏事務組合)の回答を得ることができました。その結果から、いくつか紹介します。

(1) ボランティア制度の有無

この中で公園ボランティア制度のある自治体は、全体の34.7%、264自治体。目的によって複数の制度を運用している自治体や、活動場所を公園に限らずその他のパブリックスペースも含めて広く活動サポートするという自治体もありました。

(2) 支援のタイプ

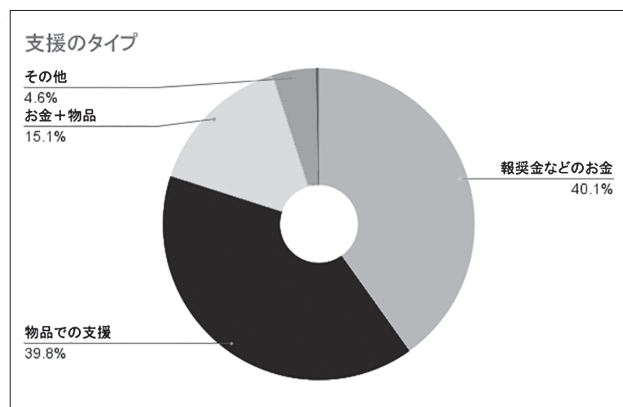
担い手団体へ自治体から行っている支援内容については、お金で支援するケースと、物品で支援するケースがそれぞれ約40%ずつ、お金と物品の両方で支援するパターンもあり、それぞれの自治体ごとに様々な方法で支援が行われていることが分かりました。

(3) サポート内容

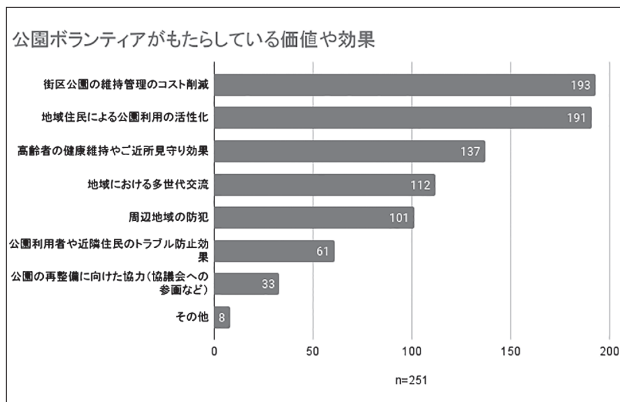
支援金以外で、行っているサポート内容で最も多かったのは、ゴミの回収(84.2%)、次に、ゴミ袋の提供(78.0%)、保険の加入(53.7%)、道具の貸出、花苗の提供(ともに47.9%)と続きました。また、交流会(9.7%)や、活動紹介情報誌の発行(7.3%)、イベント企画支援(5.8%)など、清掃や花育て活動以外の、楽しみづくりの支援についても一定数あることが分かりました。

(4) 公園ボランティアがもたらしている価値や効果

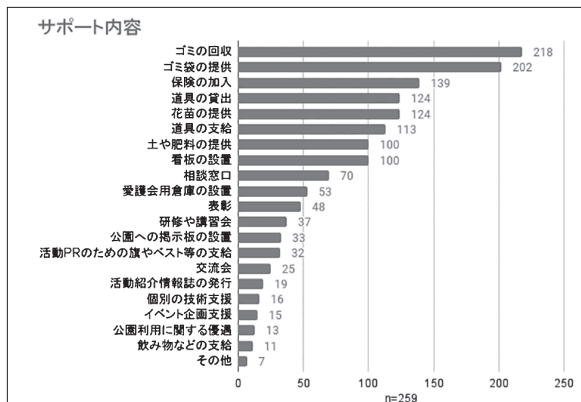
その存在価値や効果については、街区公園の維持管理のコスト削減(76.9%)と地域住民による公園利用の活性化(76.1%)が最も多く、その後、高齢者の健康維持やこ



自治体から担い手団体への支援の内容



公園ボランティアの存在価値や効果



支援金以外で行っているサポート

近所見守り効果(54.6%)、地域における多世代交流(44.6%)、周辺地域の防犯(40.2%)と続きました。

公園ボランティア活動は、公園の維持管理コスト削減と同時に、公園を中心とした地域活動や住民交流にも有効であると各自自治体が認識していることが分かる結果となりました。

(5) 公園ボランティアの抱える課題

課題については、担い手の高齢化による活動量の減少（73・8％）が最も多く、エリアを問わず共通の課題として1位になりました。

次いで、新規結成が少ない（47・9％）、新たな担い手の発掘に苦戦（46・4％）、既存団体に新しいメンバーが加入しない（44・1％）、人数不足で活動に支障がある（40・7％）、担い手の高齢化による活動の質の低下（40・3％）、解散等による団体数の減少（39・5％）、一般市民に対して活動の認知度が低い

（36・9％）と続きました。また、担当者としての課題を聞いた設問では、高齢化や担い手不足にどうサポートしていいかわからない（42・0％）が最も多く、多くの担当者が頭を悩ませていることが分かりました。

三重県内からは、20の市町に加えて県庁からも回答をいただきました。（ご協力ありがとうございます！）結果、県を含む5自治体で公園ボランティアの制度があり、300を超える団体が活動していることが分かりました。

制度のない自治体でも、自治会や町内会が地域の公園の維持管理に関わっているという市町が多く、地域の人々の手によって地域の公園が守られていることがよく分かる結果となりました。

調査結果の詳細については当法人のWebサイトに掲載していますので、ご興味のある方はご覧ください。

高齢化と担い手不足の奥に潜むのは

自治体調査に続き、公園ボランティアの担い手を対象にしたアンケート調査も行っています。活動内容や頻度、メンバーの年代や課題、やりがいなどを聞くこの調査では、たくさんの方のリアルな声が集まっています。

アンケートで声を聞いてみると、共通の課題である「高齢化」と「担い手不足」の奥には、「メンバーの

固定化」と「コミュニケーション不足」が隠れているのではないかと考えてに至りました。

いつも同じ決まった人たちだけが、ただただ静かにやっているのだと、孤独感が募り寂しいものだと、公園利用者や地域の人からの「ありがたい」との一言が、活動の大きなエネルギーになることが多くの担い手からのコメントで伝わってきました。

「ありがたい」の循環が起こるような、そんな仕組みができれば、より元気に、より充実した気持ちで、みんなが活動できるのではないかと思います。

また、コロナ禍で、公園の利用が増えたと同時に、タバコの吸い殻やゴミのポイ捨てが増えたという声もありました。「こんな時、みんなはどうしているんだろう？」そんな声もありました。私たちは、情報発信と横の繋がりがづくりでコミュニケーションを増やしていくと、いろいろな団体の活動取材して紹介する取り組みも始めました。

活動の様子やヒントを情報共有

いろいろな団体の活動の様子を取材し、Webサイトで「となりの公園愛護会」というコーナーを作って、紹介しています。皆さんの楽しそうな様子の他にも、公園を利用する子どもも含めてみんなで花の水やりができるように設置されたジョウロや、小さな子どもも使いやすいように用意された小さなゴミ拾い道具

など、すぐに参考にできそうなアイデアを紹介したりしています。シニア中心の団体では、コロナ禍でなかなか外出ができない中、月1回の公園掃除が外で体を動かしたり、ご近所さんと会って話ができる良い機会になっているという話もありました。また、公園清掃をきっかけに、ご近所の多世代が知り合い、普段地域でなかなか繋がりにくいお父さん同士での交流も深まっているという方々もいました。



いろいろな団体の活動をWebサイトで紹介：https://park-friends.org/

コスト削減だけじゃない、公園ボランティアの価値

公園ボランティアの価値については、公園愛護会制度の当初の目的でもあった「街区公園の維持管理コストの削減」という面もありますが、それだけではありません。

調査で多くの自治体職員が答えた通り、「地域住民による公園利用の活性化」もその一つです。これは、ボランティアが清掃や各種イベントを企画するという直接的な公園利用

以外にも、日常の手入れをすること
で、公園が清潔で安全な遊び場とし
て質が保たれるため、住民が安心し
て利用できる、という影響も大きい
のではないかと考えます。人の手が
入った公園は、明るく、利用者も増
えますが、反対に人の関わりが少な
い公園は、草が生え放題で快適に遊
べなかったり、どこか怖くて、近寄
るのもためらってしまいます。

また、楽しく活動する公園ボラン
ティアは、「地域のコミュニティ活
動」として、健康維持や、見守り効
果、孤立の予防、地域のゆるやかな
繋がりがづくりに効果があると考え
ます。

公園ボランティアは子育て 世代とも相性が良い

公園ボランティアの活動に関わっ
て思うのは、子育て世代だからこそ
楽しめる公園ボランティアの形があ
るのではないかとということです。公
園が身近にあるからこそ、遊びの発
展形としての、気軽な公園ボラン
ティア。

黙々と行う草取り作業がストレス
発散になったりもします。小さい子
がいても、公園なら遊んでいられる
し、出入口が限られているから、道
や海のゴミ拾いと違ってふらっとど
こかに行ってしまうリスクも少な
く、みんなで見守り合うことで、活
動がしやすかったりします。子ども
も気分次第で参加して、ゲーム感覚
で楽しくやっています。やれば戦
力、やらなくても全く問題なし。い

つもの公園遊びとはまた違った、日
常の中の非日常な公園遊びが楽しめ
ます。

家の周りで過ごす時間が圧倒的に
増えたコロナ禍。地域の公園に行く
機会が増えたという親子の声もよく
耳にします。

季節ごとに違った顔を見せる公
園、落ち葉の落ち方や雑草の生い茂
り具合もその年の天候によって全く
変わってきます。よく見ると今まで
見たこともない植物の花が咲いてい
たり、自分たちで掘り起こすところ
から花壇を作ってみると、大きな石
がゴロゴロ出てきて、公園や地域の
歴史に思いを馳せたり。まるで、公
園の新たな遊び方を開拓しているか
のような新鮮さがあります。

また、公園活動を通して、大人子
どもも含めて地域の知り合いが増えま
した。地域に知っている顔が増える
ことは、親子ともに安心なことだと



小学生も楽しく紫陽花剪定

思います。

気軽に参加できる入口を増や して、担い手の裾野を拡大

とは言え、世代や生活スタイルの
違いで、使える時間やエネルギーも
異なるのが現実。毎月もしくは毎
週、毎日のような活動に、多世代み
んなが参加するというのは難しいも
のです。でも、例えば年に1回か2
回でも、大勢で草取りをする事な
ら、ぐっとハードルが下がるのでは
ないでしょうか。草取りは、人手が
あればあつただけ効果が見える作業
ですし、イベント化してみんなでや
ると楽しめます。ボランティアは、
義務感ではなく、「楽しく」という
のがポイントで、普段の活動に参加
するのは難しくても、年1回なら参
加できるという人は増えるでしょ
う。家族でも、学生さんでも、一人
暮らしのお年寄りでも。

このようなイベント化して担い手
の裾野を広げるといふようなこと
は、1団体だけではかなりエネル
ギーが必要ですが、自治体で応援し
たり、キャンペーンのように様々
な所から呼びかけをしたりすること
で、実現への道のりが近づくことも
あるのではないのでしょうか。

誰もが気軽に参加できる入口を増
やすことで、風通しが良くなり、関
わる人が増えていく。メンバーの固
定化やコミュニケーション不足、孤
立や孤独のような課題を、みんな
と一緒に考えていくことで、解決の糸
口が見つかると思います。

自治体同士の繋がりも応援

自治会町内会だけに頼るのではな
く、企業や学校をはじめ、新たな担
い手をどう見つけていくのか？どん
なサポートが効果的なのか？他の市
町ではどうしているのか？各地で行
われている様々な取り組みを紹介し
ていきながら、情報とみんなの知恵
をシェアしていくことで、公園ボラ
ンティアを支援する行政職員同士の
繋がりも応援していきます。

みんなの公園愛護会では、
2021年3月に神奈川県茅ヶ崎市
と「公園愛護会支援に関する連携協
定書」を締結しました。調査などの
データを基に対話し協力しながら、
公園愛護会の支援をしていこうとい
うもので、これから仲間を増やしな
がら、いろいろな挑戦をしていこう
としています。

プロフィール

一般社団法人
みんなの公園愛護会
代表

かばた りか
梶田里佳



1979年名古屋生まれ。京都大学農学部卒。公園好き。自らも地域で友人と公園ボランティアを行いながら、2020年に一般社団法人みんなの公園愛護会を立ち上げる。2児の母。